

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ⑭

高谷中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第14回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和5年7月15日(土) 10時00分～11時00分
 2 会 場 信篤公民館 第2会議室
 3 構 成 ・委員長：大学教授
 ・委員：各学校(高谷中・信篤小・二俣小)の学校運営協議会代表(18名)
 4 内 容 ・令和5年1月に実施した意識調査、第8、9回プロジェクト会議の報告を行いました。

※詳しくは、「会議資料」をホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/edu20/1111000002.html>

報告

(1) 意識調査について

令和4年5月と令和5年1月に実施した意識調査を比較し、平均値や単なる数字の積み上げでは見えない、データの組み合わせによる、見えない成果と課題を可視化するため、委員長(大学教授)が意識調査のデータ解析を行い、報告しました。

【実施期間】 2回目 令和5年1月24日(火)から1月31日(火)

○回答数

	高谷中学校		信篤小学校		二俣小学校	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
児童生徒	358	338	316	403	134	138
保護者	156	237	299	341	77	68
教職員	27	26	27	32	19	21
合計	541	601	642	776	230	227

<意識調査のデータ解析から見た成果と課題>

①児童生徒について

- ・学習面については、前回の意識調査と比較し全体的に向上傾向にある。
- ・5、6年生は、意欲的な学習姿勢と自己肯定感が向上し、学習の中で主体的に学ぶことができている。
- ・中学2年生は、学園に対する愛校心や意欲的に学習する姿勢、教師に対する信頼関係の向上が見られる。
- ・小・中学生に共通して、自分の成長に不可欠な友人の存在、自分が成長する上で、より深い関わりに意味のある助け合いが必要である。

②教職員と児童生徒の関係について

- ・前回に比べ、教職員が信篤三つ葉学園に誇りを持つ職員の割合が高くなっている。
- ・学園に誇りを持つ教職員は、児童生徒との信頼関係を支え、児童生徒の問題行動に対処する積極的な姿勢が、児童生徒との信頼関係の指標となることを認識している。
- ・一方、「児童生徒の学習内容理解と学習意欲」と「教職員の連携によるトラブルの対処」について消極的な評価となっている。
- ・今後は、児童生徒の学習意欲の向上と自己肯定感の向上に結び付く取組を考える必要がある。

③保護者の意識の傾向について

- ・保護者が、信篤三つ葉学園の活動を支援する意識は前向きで、学園の改革に大きな期待をしている。
- ・保護者は、小中一貫教育の実施による効果について、令和4年5月の意識調査と比較し、中一ギャップの緩和、小中一貫教育による教育効果、地域とのつながりの拡がり、3校連携した教育力の向上に大きな期待をしている。

④全体の成果について

- ・教職員と保護者の小中一貫教育の効果への期待・評価が一致の方向に向かっている。
- ・小学5・6年生は、令和4年5月の意識調査と比較して、意欲的な学習姿勢と高い自己肯定感が顕著に見られた。
- ・中学2年生は、信篤三つ葉学園への誇りや意欲的な学習姿勢の向上、教科担任制による質問への期待が顕著に見られた。

⑤全体の課題について

- ・信篤三つ葉学園の改革を進めていく中で、保護者の期待・評価は学園の改革を支えるという認識を持ち、学校、保護者、地域との協働関係の強化が重要である。

- ・児童生徒の教育効果をあげる可能性をさらに引き上げる取組が必要である。

- ・意欲的な学習姿勢と高い自己肯定感を引き上げる取組
- ・他者との積極的な交流と自己の振り返りを豊かにする取組

授業の話し合い=議論によって問題を発見・理解していく積み重ねが必要。

<主な意見> (○：委員長及び委員 ●：事務局)

- 自己肯定感が高い児童と低い児童の傾向について、具体的に教えていただきたい。
- 自己肯定感が高い児童生徒は、色々なことへの関心が高く、自分の変化に対しても受け止めて成長・実感を覚え、最終的な成長に繋げる傾向にある。
自己肯定感が低い児童生徒は、「自分は何のため学習しているのだろう」、「今の自分の勉強が将来の自分にどう関係するのか」、「とりあえず受験戦争だけ頑張ればいい」等、目標達成に向けた学習になってしまう傾向にある。
- 「多様な他者を共感的に受け入れる人間性、話し合い（議論）によって授業を展開することが大切」とのことだが、議論というのが低学年からでも可能とのこと、先日、信篤小学校の授業参観に参加した時のことを思い出しました。道徳の授業で「掃除をしない子どもについて、どうしてやらないのか」などのテーマでした。ほんの数分でしたが、子どもたちが話し合いをしており、教科に関わらず考える場面があるので、そこでの議論や話し合いが大切だと思いました。
- 意識調査の分析結果について、大人が考えることと子どもが考えることには大きなギャップがあると思いました。我々の先入観だけで、物事を進めていくのは良くないと感じたので、子育てに役立てたいと思います。

(2) 第8回、第9回プロジェクト会議について

第8回、9回のプロジェクト会議を、以下のとおり開催したことについて報告しました。

<第8回プロジェクト会議（5月1日開催）主な会議内容>

- ・今年度実施する「わが町・未来探究科」の取組の検討。・今年度、3校で実施する取組の検討。
- ・信篤三つ葉学園ランドデザインの確認。

<第9回プロジェクト会議（7月3日開催）主な会議内容>

- ・7月20日（木）の信篤三つ葉学園夏休みを迎える会の3校合同開催の検討。
- ・高谷中学校の体育科、理科、美術科、数学科の教員による乗り入れ授業の検討。
- ・信篤小学校の社会科の研究に合わせて、小中で連携して行う取組の検討。

◎夏休みを迎える会（終業式）の様子と、第9回のプロジェクト会議だよりについては、次回の検討委員会でご報告する予定です。

(3) その他

次回、義務教育学校の設置に関する検討委員会の開催予定

日程：令和5年11月25日（土）

場所：信篤公民館

お問い合わせ先（事務局）：市川市教育委員会 学校教育部 学校環境調整課

Tel:047-702-5355/Fax:047-383-9203